

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察技術情報について

令和5年度病害虫発生予察技術情報第9号を発表したので送付します。

令和5年度病害虫発生予察技術情報第9号

水稻（一期作）作付けにおけるスクミリンゴガイの防除対策について

水田におけるスクミリンゴガイは無水でも半年以上生存し、湛水後に活動を再開して若苗を食害します。被害を防ぐためには、ほ場準備から移植後3週間までの防除対策が重要となりますので、以下の対策を徹底しましょう。

1 生態

- (1) 本種は南米原産のリンゴガイ科の大型淡水巻貝で、1980年代に台湾などから食用（養殖用）として導入されたものが野生化した。九州・沖縄、四国、本州の太平洋側など、温暖な地域で多く発生しており、現在も分布の拡大が続いている。水稻では移植後2～3週間までの若苗を食害し、多発すると欠株や生育障害をもたらす（図1、2）。
- (2) 成貝は最大で殻高8cmほどになり、殻色は黄褐色～黒色、螺層は5層右巻きで、殻口は大きく角質の蓋を備える（図3）。周年活動するが、3月頃から摂食や交尾が活発になり、夏季に盛んに繁殖する。
- (3) 摂食活動は水中で行われ、深水田で被害が多い。落水後は土中に潜って活動を停止し、湛水すると活動を再開する。乾燥条件下では口蓋を閉じて代謝を下げ、無水でも半年以上生存できる。
- (4) 母貝は夜間、水辺の植物や用水路等のコンクリート壁面に登り、直径2～4mmの鮮紅色の卵を数十～数百個の卵塊状に産卵し、1頭あたりの年間総産卵数は2,400～8,600個にもなる（図4、5）。産卵は3～4日間隔で行われ、好適な環境では約10日でふ化し、2ヶ月程度で成熟する。

2 防除対策上注意すべき事項

- (1) 水深が深い場所の若苗は集中的に食害されるため、ほ場自体に傾斜や凹凸を生じさせないように均平にする。
- (2) 畦畔及び用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない。
- (3) 取水口に侵入防止網等（目合5～10mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図6）。
- (4) 貝及び卵塊は見つけ次第除去する。人体に有害なセンチウが寄生している場合があるので、捕殺する際にはゴム手袋を着用する。
- (5) 本田での食害が集中する移植後2～3週間は1cm以下の浅水管理に努め、本種の活動を抑えるとともに、メタアルデヒド粒剤などの薬剤を施用する。
- (6) 収穫後は通常より浅く、遅い速度で丁寧に耕耘し、成貝を破砕する。



図1 食害による水田の欠株



図2 イネ株元に寄生する稚貝



図3 成貝



図4 卵塊



図5 畦畔雑草上の卵塊



図6 取水口の侵入防止網

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojjo/index.html>